国際中等教育研究　第７号　p.75 ～ 85
東京学芸大学附属国際中等教育学校研究紀要

保健体育科 MYP への取り組み　その３

MYP Initiatives in Physical Education No. 3

保健体育科
板村邦弘　大川健介　加藤英明　橋本みゆき　深澤祐美子

要旨

保健体育科として考えるグローバルな視野と能力を考え、今後さらに進んでいくであろう国際社会において、様々な文化を読み解き、文化の違いと多様性に対処する力を持った生徒を育成する。MYP における１～4 年生までの評価基準と保健体育科で関わってきた二つのＣＳ活動（コミュニティと奉仕）の現状とその内容を掲載した。

１．　はじめに

保健体育科では、６ヵ年（MYP における４年間）を通して、次のことを目標として、学習を進める方向を示した。

保健体育科では、生徒たちが国際社会の一員としての心と体を一体としてとらえ、運動や健康・安全についての理解と運動の合理的な実践を通して、積極的に運動に親しむ資質や能力を育てる。それとともに健康の保持増進のための理解・実践力の育成と体力の向上への学びを大切にし、明るく豊かな生活を営む態度を育てる。また保健分野として個人生活における健康・安全に関する理解を通じて､自らの健康を生涯にわたり適切に管理し､改善していく資質や能力を育てると設定した。

昨年度は「グローバルな視野と能力を持つ生徒の育成」をテーマに授業研究と研究協議会を行った。それに引き続いて今年度の報告をする。

２．保健体育科として考えるグローバルとは

（1）グローバルとはつながっていくことだけであろうか

インターネットや携帯電話などさらにはオンラインゲームによって、「人とつながる」「人と協同する」「社会をつくる」など容易になされているのが現状である。このような点からみれば、仮想社会でつながりの関係は容易にできると思われる。しかし、このような関係の中には、相手に配慮を欠いた言葉や発言が勝手気ままに飛び交いやすいという現状もあり、これはコミュニケーションと呼べるかは疑問である。

学校教育の存在は、生身の身体をもつ人間同士が出会い、関わるということが仮想の世界とは大きく異なる点である。生徒は、学級や学年を通じて長期間にわたって共同生活を営む。声、表情、感情を持った多くの個人が存在する場で日常的に行われる。[1]本校には、外国人子弟や異文化での学習経験を持つ生徒達が多く在籍している。その交流する中で、他者の内的感情を読み取ったり、応対したり思いを共有したりする。時によっては連帯感や協力する心を生み出すことも必要であり、６年間という長期に渡って生活を共にするのである。そのつながりは密接であり、特に保健体育の場合、身体活動を通じて関わっていくのである。

（2）どのような視野と能力を育成するか

昨年度の研究では、現状とは異なる未来を見据えて、乗り越えていく力を育てていかなければならないと考えた。国内、国外を問わず様々な生育歴の中で子どもたちの「価値観や行動、ライフスタイル」の変容を通して持続可能な学校づくりを推進し、持続可能な共同体(コミュニティー）を足元から広げていくことが今後の教育の中で必要であると思われる。そのためには、以下の三点が重要であると考えた

① 多様性（ダイバーシティ）を認めるコミュニケーション

多様性には「多種多様な状態または特性」と「つながり支えあっている状態」の２つの意味があるが、社会や企業・学校などの組織運営においては、「多様な文化的・社会的背景をもつ構成員の一人ひとりが、それぞれの持てる力を発揮して活躍できる状態」を指す。[2]個々人において内在するものを発揮できる状態を作り、それを受け取る人がおり、互いのやりとりや行動を大切にする過程を重視していく。

海外留学・海外赴任、多国籍企業で働く際の「外への国際化」や、地域の多民族／多文化社会化という「内なる国際化」への対応に「異文化間リテラシー（文化を読み解き、文化の違いと多様性に対処する力)」と「対話型コミュニケーション」の基礎スキルを学ぶ。

スポーツは、健常者だけのものではない。行い方や用具を工夫することで、全ての人にその楽しさが味わえるものである。これもまた多様性の一種であると考えている。ノーマライゼーションなど学習する機会を持つことによって、様々な感性を持つ生徒に育って欲しいと考えている。

② 文化としてのスポーツを通して、学習と異文化理解を図る

文化はひとつの生きたシステムである。文化の意味や機能、全体構造を理解する際に役立つものとして、「見える文化」と「見えない文化」の分類がある。「触れる文化」と「触れない文化」、あるいは「物質文化」と「精神文化」ともいわれている。たとえば、衣食住などは「見え」て「触る」ことのできる「物質文化」であり、価値観や信条といった私たちの頭の中にある観念体系は「見る」ことのできない「精神文化」といえる。スポーツにも武道の中には礼儀を尊重する精神的な流れや欧米のスポーツにおいてもプレイを共にするパートナーとしての精神的流れが、文化的背景として存在する。ラグビーなどのノーサイドという言葉もスポーツの指導者であれば、その持つ意味を理解している方が多いと思われる。

生徒達は授業の中で、スポーツを通して様々な文化背景のもとでその見えない世界を知ることも重要であると考える。日本であれ、海外の学校であれ、生徒達は異なった思考、行動、価値観や世界観が存在するであろう。そこには様々な個人の表現パターンの中が現れるであろう。生徒同士で問題を共有し、個人やチーム等を活用することで理解を図る力を育てたい。

③ スポーツを知る。社会を知る。

スポーツの起源は、そもそも様々な国や地域における民族的娯楽がスポーツへと変化してきた。もともとローカルなものがグローバル化してきたのである。民族的娯楽がスポーツへ変化していくプロセスをスポーツ化(sportization) である[3]とスポーツ文化のグローバル化についての研究者である Maguire は言っている。プロセスにおいては、近代社会への変容（インターネットの発達や自ら多くの人たちに発信することが容易になってきたことなど）が影響を与え

ている。

スポーツの発祥においては、イギリスやアメリカから発信されたものが多いことは、周知されている。しかし、それらのスポーツはもともとがグローバルに発信されたものでは無く、ローカルの中で発生した娯楽が、伝播する過程においてスポーツが形を変えながら普及していったという経緯がある。まさにそれはスポーツが、ローカルなものから、グローバル化する過程にあったわけである。

スポーツは他国、自国文化のローカルな部分から発生した集合体である。帰国生や外国人生は、在外国での教育過程の中でスポーツや運動とのかかわりを学習してきている。それは、学びの履歴であり、日本の生徒とはまた異なるものであるのは当然である。

また、帰国生は運動、スポーツに対する意欲、関心、認知等に関わる部分においては一般生と異なるところがある。[4]一般生徒共にローカルなルールやスポーツ実践の方法などを創り上げていく過程の中で、スポーツを知り、味わえること、創り上げていく楽しさを味わえることが育てていくことができればと考えた。

（３）グローバル化に向けて

「国際社会において、様々な文化を読み解き文化の違いと多様性に対処する力を持った生徒」の育成が大切だと考える。

具体的には、健康の保持増進や環境の保全、またスポーツの楽しみ方について、国際社会での日本の現状をしっかりと分析し把握できること、そして日本（自分）が国際社会に対してどのように関わっていくのかを考えられる資質や能力を身につけた人材に育ってほしというのが教科の願いである。

保健体育の授業では、直接相手とかかわり、ことばや体全体を通じた関わりを持つ機会が多く存在している。こうした人との関わりの中で、直接的な対話型コミュニケーションをより積極的に行えるように授業を工夫し、基礎スキル習得を目指している。

また、スポーツは、健常者だけのものではない。障害の有る無しや、男女や個人の能力差、また得意不得、好き嫌いなど、このようなことも多様性の一種と考えている。このような多様性が存在しても、行い方や用具、ルールを工夫することで、全ての人がその楽しさが味わえるものである。このように相手の状況を判断し同じ立場に立つことができ、思いやりのある行動がとれるような資質や態度、その場に集った全員が楽しめるように工夫できるような能力を育てることが大切であろう。

また保健では社会に起こっている現象を踏まえ、現代や将来の生活に生かすことができる学習内容を他教科と連携しながら、構築していかなければならないと検討し、続けていくことが大切であると確認された。現在本校が関わっているナンフェスなど内的疾患を持つ方々との交流も保健学習の見地からも他者理解の視点から貴重な機会であると確認した。

３．各学年の MYP 修正評価基準について

（１）保健体育の評価

MYP は７段階の絶対評価基準表に基づく評価を行っている。保健体育科では、下記４つの規準ごとに生徒個々を絶対的規準に当てはめ、各評価点を決定している。各規準での評価点を総合計して、７段階に分けられる。現在、中等学校１～３年生は、保健と体育を混入した形で評価し、４年生に関しては、体育と保健を分けてはいるが、７段階評価をしている。

次の観点で評価を行っている。

評価規準A

知識の活用（Use of Knowledge　８段階満点）

運動やスポーツ・健康に関する知識や原則について十分に理解し、自らや他者へ活用することができる。運動・スポーツの楽しさや喜びを体得できる。将来のスポーツライフの基礎を学習することができる。また、生活において運動やスポーツ心身にわたる効果や基礎的な事項を理解することができる。

評価規準B

運動の構成(Movement Composition　６段階満点)

運動やスポーツの特性に応じて、自己やグループの能力に適した課題の解決に対して工夫を凝らして、活動のしかたを考え、実践・応用する能力を身につけることができる。

評価規準C

運動の技能(Perfomance　１０段階満点)

自己の能力に適した課題の設定・解決をめざして運動を行うとともに、運動の特性に応じた技能の基礎を身につけ、応用することができる。また、個人およびグループのいずれの状況でも戦術等を応用することができる。また、自己の体力や生活に応じて健康や体力を高めるための原則を利用して、運動の合理的な実践を行うことができる。

評価規準D

社会的スキルと個人的関与（Social skills and personal engagement　８段階満点）

他者との運動やスポーツの学びを通じて公正、協力、責任などの態度を尊重する能力を身につける。学習カードなどの記録を残し、提出する。他者のことを思いやるなどが挙げられる。異文化・日本の伝統文化にある運動・スポーツへの認知・理解を高める能力を身につける。[5]

（２）評価している具体的な内容

保健体育の評価規準（Criterion）および課題例、各修正評価規準を以下に示す。

評価規準A　知識の活用（Use of Knowledge　８段階満点）

課題例　保健・体育ペーパーテスト　レポート

評価規準B　運動の構成(Movement Composition　６段階満点)

個人もしくは集団で運動を行うための基礎・基本的な動きの習得とその組み合わせ

評価規準C　運動の技能(Perfomance　１０段階満点)

実技全般

評価規準Ｄ　社会的スキルと個人的関与
（Social skills and personal engagement　８段階満点）
学習への取り組み、学習カードの提出、他者とのコミュニケーション等

規準 A 知識の活用

	MYP 目標	ISS1	ISS2	ISS3	ISS4
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。
1 - 2	考査の対象となっている原則についてある程度の知識を持っている。これらの原則に対する理解は、必要最低限である	保健や体育に関わる用語の使い方や理解がなされていない。	体育に関わる用語の使い方や理解が不十分である。	体育に関わる用語の使い方や理解が限定的である。	体育に関わる用語の使い方や理解が限定的である。
		保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての知識が乏しく活用されていない。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての知識が乏しく、活用も不十分である。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容について必要最低限の知識しかなく、その活用も限定的である。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容について最低限の知識しかなく、その活用も限定的である。
3 - 4	考査の対象となっている原則についてある程度の知識を持っている。これらの原則に対する理解は、まだ十分ではない	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について少し理解している。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分とは言えないが少し理解している。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分とは言えないが少し理解している。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分とはいえないが少し理解し、活用されている。
		保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての知識と理解を示し、活用されているが十分ではない。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての知識と理解を示し、十分とは言えない。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての知識と理解を示しているが、十分ではない。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての知識と理解を示しているが、まだ十分ではない。
5 - 6	考査の対象となっている原則について十分な知識を持っている。これらの原則に対する理解は、ある程度できている	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について総体的に理解している。	保健や体育に関わる用語の使い方や理解が十分で、活用されている。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分に理解し、よく活用されている。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則についてある程度の知識を有し、活用しようとしている。
		保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての知識と理解を示し、十分活用されている。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての総体的な知識と理解を示し、活用しようとしている。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての総体的で正しい知識と理解を示し、十分活用しようとしている。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容についての総体的で正しい知識と理解を示し、十分活用しようとしている。
7 - 8	考査の対象となっている原則について十分な知識を持っており、活用することができている。これらの原則に対する理解は、十分できている	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分な理解と知識を有している。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分な知識を有し, よく活用されている。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分な知識を有し、よく活用されている。	保健や体育に関わる用語の使い方や原則について十分な知識を有し、よく活用されている。
		保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容について十分な知識と理解を示し、正しく十分に活用されている。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容について十分な知識と理解を示し、正しくかつ積極的に活用されている。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容について十分な知識と理解を示し、正しくかつ積極的に活用されている。	保健や運動の原則や概念、戦略、技能やルールなど、学習した内容について十分な知識と理解を示し、正しくかつ積極的に活用されている。独自のアイデアで新たな戦略などを考えることができる。

規準 B 運動の構成

	MYP 目標	ISS1	ISS2	ISS3	ISS4
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。
1 - 2	アクティビティの必要条件にある程度合致する一連のシンプルな動作を計画し、組み立てることが若干できる。	運動の構成において、必要な動作や、適切な動作、シンプルな動作などをいくつか計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、必要な動作や適切な動作、美的な動作、シンプルな動作などを、いくつか計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、必要な動作や、適切な動作、美的な動作、シンプルな動作などを、一連の動きとしていくつか計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、必要な動作や、適切な動作、美的な動作、シンプルな動作などを、一連の動きとして計画し、組み立てることができる。
		動きや技の構成が単純で一連の動きになっていない。	一動きや技の構成などが単純で一連の動きになっていない。スムーズさにかける。 表現が乏しい。	一連の動きや技の構成などが単純でスムーズさにかける。 表現が乏しい。	一連の動きや技の構成などスムーズではあるが単純である。表現が限られる。
3 - 4	アクティビティの必要条件を満たす、より洗練された一連の動作を計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、必要な動作や、適切な動作、美的な動作などを一連の動きとして計画し、組み立てることができる。	運動の構成て、必要な動作や、適切な動作、美的な動作、より洗練された動作などを一連の動きとして計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、必要な動作や、適切な動作、美的な動作、より洗練された動作などを一連の動きとして計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、必要な動作や、適切な動作、美的な動作、より洗練された動作などを一連の動きとして計画し、組み立てることができる。また、動きとして表現できる。
		一連の動きや技の構成などがスムーズに展開されている。	一連の動きや技の構成などが洗練されており、スムーズに展開されている。表現に工夫がみられる。	一連の動きや技の構成などが洗練されており、スムーズに展開され、表現が豊かである。	一連の動きや技の構成などが洗練されており、スムーズに展開され、表現が豊かである。
5 - 6	アクティビティの必要条件を完全に反映した一連の複雑な動作を計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、必要な動作や適切な動作、美的な動作などを取り入れた一連の複雑な動きを計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、動きの原則や概念に基づき、美的な動作や動作の可能性、変化などを取り入れた一連の複雑な動きを計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、動きの原則や概念に基づき、美的な動作や動作の可能性、変化などを取り入れた一連の複雑な動きを計画し、組み立てることができる。	運動の構成において、動きの原則や概念に基づき、美的な動作や動作の可能性、変化などを取り入れた一連の複雑な動きを計画し、組み立てることができる。、動きの中でよく表現されている。
		一連の動きや技の構成などが洗練されており、美的でスムーズに展開されている。	一連の動きや技の構成などが洗練されており美的でスムーズに展開され、表現が豊かである。	一連の動きや技の構成などが洗練されており美的でスムーズに展開され、表現が豊かで完成度が高い。	一連の動きや技の構成などが洗練されており美的でスムーズに展開され、表現が豊かで完成度が高い。芸術性に富む。

規準 C 運動の技能

	MYP 目標	ISS1	ISS2	ISS3	ISS4
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。
1 - 2	基本的・基礎的な運動を実施できる能力はあるが、非常に初歩的である。グループでの協調的活動がうまく行うことができない。	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用することが全くできない。課題を解決の仕方を他者に伝えることができない。	やや複雑な運動を合目的な部分は少なく、応用する運動の技能、技術を利用することが全くできない。課題解決のしかたを他者に示せない	複雑な運動を合目的な技能、技術を利用することができない。課題解決のしかたを他者に示すことができない	やや複雑な運動を合目的な技能、技術を利用することができない。課題解決のしかたを他者に示すことができない
		個人やグループで、作戦や戦術を考えずに攻防したり、チャレンジしたりする。	個人やグループで、具体的な作戦や戦術を考えずまた使わずないで攻防したり、チャレンジしたりするだけである。	個人やグループで、作戦や戦術の検討をおこなわず、攻防や挑戦はするが、対策を考え実行することはできない	個人やグループで、作戦や戦術の検討をおこなわず、攻防や挑戦が不適切であり、対策を考え実行することはできない
		基本的で簡単な運動を理解することができていなく、その運動をおこなうことができなかったり、表現することができない	運動の基本と少し多様性のある運動を十分に理解できない。その運動をほとんどおこなうことができなかったり、表現することができない	多様性のある運動をあまり理解せず、その運動を十分ににおこなうことができなかったり、表現することができない	多様性のある運動をあまり理解せず、その運動を十分ににおこなうことができなかったり、表現することができない
3 - 4	基本的・基礎的な運動を実施できる能力はあるが、非常に必要最低限であり、あまり応用することはできない。グループでの協調的活動を行おうとするが十分にうまく行うことができない。	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用することはできない。課題を解決の仕方を他者に口頭だけで伝えることができる。	やや複雑な運動を合目的な部分は少なく、応用する運動の技能、技術を利用することはできない。課題解決のしかたを他者に示すことはまれである	複雑な運動を合目的な技能、技術を利用しながら課題解決のしかたを口頭だけで他者に示すことができる	やや複雑な運動を合目的な技能、技術を利用しながら課題解決のしかたを口頭だけで他者に示すことができる
		個人やグループで、あまり作戦や戦術を考えずに攻防したり、チャレンジしたりする	個人やグループで、的確ではない作戦や戦術を使い、攻防したり、チャレンジしたりするだけである。	個人やグループで、ほとんど作戦や戦術の検討をおこなわず、攻防したり、チャレンジしたりする	個人やグループで、あまり作戦や戦術の検討をおこなわず、攻防したり、チャレンジしたりする
		基本的で簡単な運動をあまり理解することができていなく、その運動を十分におこなうことができなかったり、表現することができない	運動の基本と少し多様性のある運動を十分に理解できない。その運動を円滑におこなうことができなかったり、表現することができない	多様性のある運動をあまり理解せず、その運動を十分ににおこなうことができなかったり、表現することができない	多様性のある運動をあまり理解せず、その運動を十分におこなうことができなかったり、表現することができない
5 - 6	基本的・基礎的な運動を実施できる能力はある。スキル、ストラテジー、概念を含めた能力を発揮しようとしている。グループでの協調的活動を行おうとする事を試み、課題解決を図ろうとする。	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用することはできないが、課題を解決の仕方を口頭や実技で他者に示すことができる	やや複雑な運動を合目的な部分は少ないかもしれないが、基本的な運動の技能、技術を利用して課題解決のしかたを他者に示すことができる	複雑な運動を少しの合目的な技能、技術を利用しながら課題解決のしかたを口頭や実技で他者に示すことができる	やや複雑な運動を少しの合目的な技能、技術を利用しながら課題解決のしかたを口頭や実技を通して他者に示すことができる
		個人やグループで、ややあいまいな作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、的確ではないかもしれないが少し複雑な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、少し高度な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、少し高度な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりしようとすることができる
		基本的で簡単な運動を理解し、その運動を十分ではないがやや円滑におこなうことができたり、表現することができる	運動の基本と少し多様性のある運動をやや不十分ではあるが理解し、その運動を少し円滑におこなうことができたり、表現することができる	多様性のある運動を十分ではないが理解し、その運動をやや円滑におこなうことができたり、表現することができる	多様性のある運動を十分ではないが理解し、その運動をやや円滑におこなう努力ができたり、表現することができる
7 - 8	基本的・基礎的な運動を実施できる能力と応用する力はある。スキル、ストラテジー、概念を含めた能力を発揮しようとしている。グループでの協調的活動を行い、課題解決等を積極的に図ろうとする。	さまざまな活動の中で、やや不十分ではあるが基礎・基本的な運動を利用して課題を解決の仕方を他者に示すことができる	やや複雑な運動を十分ではないが、必要な技能、技術を利用して課題解決のしかたを他者に示すことができる	より複雑な運動をやや合目的な技能、技術を利用しながら課題解決のしかたを他者に示すことができる	やや複雑な運動を合目的な技能、技術を利用しながら課題解決のしかたを他者に示すことができる
		個人やグループで、十分ではないが少し基本的な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、少し複雑な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、多少高度な作戦や戦術をところどころに使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、多少高度な作戦や戦術をところどころに使い、攻防したり、チャレンジしたりすることができる
		基本的で簡単な運動を理解し、その運動を十分ではないがやや円滑におこなうことができたり、表現することができる	運動の基本と少し多様性のある運動を十分ではないが理解し、その運動を多少とも円滑におこなうことができたり、表現することができる	多様性のある運動を十分ではないが理解し、その運動をほぼ円滑におこなうことができたり、表現することができる	多様性のある運動を十分ではないが理解し、その運動をほぼ円滑におこなうことができたり、表現することができる
9 - 10	基本的・基礎的な運動を実施できる能力と応用する力に秀でている。スキル、ストラテジー、概念を含めた能力を他者へも発揮しようとしている。グループでの協調的な活動を行い、課題解決等を他者と共に積極的に図ろうとすることができる。	さまざまな活動の中で、基礎・基本的な運動を利用して課題解決のしかたを他者に示すことができる	やや複雑な運動を必要な技能、技術を利用して課題解決のしかたを他者に示すことができる	より複雑な運動を必要な技能、技術を利用して課題解決のしかたを他者に示すことができる	やや複雑な運動を必要な技能、技術を利用して課題解決のしかたを他者に様々な方法で示すことができる
		個人やグループで、基本的な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、少し高度な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、やや高度な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる	個人やグループで、やや高度な作戦や戦術を使って、攻防したり、チャレンジしたりすることができる

規準 D 社会的スキルと個人的関与

	MYP 目標	ISS1	ISS2	ISS3	ISS4
0	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。	以下の説明で記述されるいずれの基準にも達しない。
1 - 2	自己や他者との課題達成に向けて、責任や公正さ、協力など取り組みに不十分さがみられる。	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気づかず、そのままにしてしまう。コミュニケーションが不十分で、建設的な方向へ伝えることができない	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気づかず、そのままにしてしまう。コミュニケーションを十分に取ろうとしていない姿勢があり、より建設的な方向へ伝えることができない	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点を考えることができず、言葉や言葉以外の図などを用いるが、伝えることと内容が不十分な点が多い	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点を考えることができず、言葉や言葉以外の図などを用いるが、伝えることと内容が不十分な点が多い
		友達と力を合わせたりすることができなく、自分から積極的に関わり学習に取り組むことができない	友達と力を合わせたりすることが十分でなく、自分から積極的に関わりながら意欲的に学習に取り組むことができない	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度をとることができない。課題解決への方針を考えることができなくて、学習に取り組む	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度をとることができない。課題解決への方針を考えることができなくて、学習に取り組む力が弱い。上って他者の励みな
		自他の文化を尊重することができず、人に対する心遣いに不十分な面が多kの場面で表面化することがある	自他の文化を尊重することができず、人に対する心遣いに不十分な面が多kの場面で表面化することがある	自他の文化を尊重することができるが、人に対する心遣いに不十分な面がときどき表面化することがある	自他の文化を尊重することができず、人に対する心遣いに不十分な面がときどき表面化することがある
		運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意にかなり乏しく、それらを行うための責任を十分に果たす努力をしないことが頻繁に見られる	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意にかなり乏しい。それらを行うための責任を十分に果たす努力をしないことが頻繁に見られる	運動・スポーツなどの学習過程上で、それらに対する熱意にやや欠けており、行うための責任感に弱さがある	運動・スポーツなどの学習過程上で、それらに対する熱意に欠けており、行うための責任感にかなりの弱さがある
		自分や仲間との達成感を味わうための簡単な目標作りができない。それを達成や反省を生かすことができない	自分や仲間との達成感を味わうための具体的であり、目標作りができない。それを達成や反省を生かすことができない	自分や仲間との活動を達成するために具体的な目標作りを計画はすることができない。また実行力に欠ける点が多い	運動・スポーツなどの学習過程上で、それらに対する熱意に欠けており、行うための責任感にかなりの弱さがある
3 - 4	自己や他者との課題達成に向けて、責任や公正さ、協力などの取り組みに不十分さがみられるが、よりよくしていこうとする努力しようとしている。	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に多少なりとも気づき、言葉や言葉以外の図などを用いるが、伝えること不十分なところがある	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に注目はするがまだ十分には伝えたり、伝わってはいない。言葉や言葉以外の図などを用いるが、伝えることが不十分なところがある	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に対して、言葉や言葉以外の図などを用いるが、伝えること不十分なところがある	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に対して取り、言葉や言葉以外の図、模範などを用いることはやや不十分である。伝えることは、あまり具体性がなく、不十分である
		友達と力を合わせたりする力が弱く、自分から少しではあるが前向きに学習に取り組んでゆくことができる。	友達と力を合わせたりする力が弱いが、自分から多少積極的に学習に取り組んでゆくことができる。	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度がやや弱いが、方針を考え、学習に取り組んでいるが他者の励みとなる影響力はやや弱い	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度とまではいかない。自らの方針を考え、学習に取り組む面が乏しく、他者の励みとなる影響力は弱い
		自他の文化を尊重することができるが、人に対する心遣いに不十分な面がときどき表面化することがある	自他の文化を尊重することができるが、人に対する心遣いに不十分な面がときどき表面化することがある	自他の文化を尊重することができるが、人に対する心遣いに不十分な面がときどき表面化することがある	自他の文化を尊重することが乏しく、文化を学習していく気持ちが不十分である。人に対する心遣いに不十分な面があり、責任を果たすことが稀薄である
		運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意にやや乏しく、それらを行うための責任を十分には果たせないことが時折ある	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意にやや欠ける。それらを行うための責任を十分には果たせないことが時折ある	運動・スポーツなどの学習過程上で、それらに対する熱意にやや欠けており、行うための責任感に弱さがある	運動・スポーツなどの学習過程上で、それらに対する熱意に欠けており、自他のための責任を全うすることができない
		自分や仲間との達成感を味わうためにややあいまいな目標作りを計画するが、それを達成や反省を生かすことがやや不十分である	自分や仲間との達成感を味わうためにややあいまいな目標作りを計画するが、それを達成のためやその後の反省が生かされることがやや不十分である	自分や仲間との活動を達成するために身近な目標作りを計画はするが、実行力に欠ける点が時折ある	自分や仲間との活動を達成するために身近な目標作りを計画はするが、実行力に欠ける点が多くあり、努力も不足している。自己の反省が生かされることが少ない。学習カードなどの提出状況はやや悪い、内容も十分とは言えない
5 - 6	自己や他者との課題達成に向けて、責任や公正さ、協力などの取り組みが十分である。その努力も見ることができる。	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気づき、言葉や言葉以外の図などを用いて、基本的なコミュニケーションを使いながら伝えることができる	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気付き、言葉やそれ以外のよりよい理解の方法等を試行して、コミュニケーションを図り、印象的に伝えることができる	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に着目して、言葉やそれ以外の方法等を利用して、コミュニケーションを図り、他者にも分かりやすく印象的に伝えることができる	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に対して取り組む努力は見受けられる。仲間に言葉や言葉以外の図、模範などを用いるが、伝えることに不十分なところもある
		友達と力を合わせたり、自分からより積極的に学習に取り組んでゆくことができる。	友達と力を合わせたり、自分からより積極的に学習に取り組んでゆく影響力を発揮することができる。	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度と方針を持ち、学習に取り組み他者の励みとなることができる。	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度がやや弱いが、方針を考え、学習に取り組んでいるが他者の励みとなる影響力はやや弱い
		自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	自他の文化を尊重することができるが、人に対する心遣いに不十分な面がときどき表面化することがある
		運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと果たすことができる	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚し果たすことができる	運動・スポーツなどの学習過程を検討した上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚し果たすことができる	運動・スポーツなどの学習過程上で、それらに対する熱意に欠けており、自らの責任感に弱さを見ることができる
		自分や仲間との達成感を味わうために身近な目標作りを計画し、それを達成しようとすることができる	自分や仲間との達成感を味わうために身近な目標作りを計画、実行し、それをさらに高めた達成ができるようにすることができる	自分や仲間との活動を達成するために身近な目標作りを計画、実行し、それを今まで以上に高めた形で実行することができる	自分や仲間との活動を達成するために身近な目標作りを計画はするが、実行力に欠ける点が時折ある。学習カードなどの提出状況はよいが、内容はやや欠ける
7 - 8	自己や他者との課題達成に向けて、責任や公正さ、協力などの取り組みが継続的でかつその内容が十分である。そして、その努力をしていることが見いだせる。	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気づき、言葉や言葉以外の図などを用いて、基本的なコミュニケーションを使いながら伝えることができる	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に気付き、言葉やそれ以外のよりよい理解の方法等を試行して、コミュニケーションを図り、印象的に伝えることができる	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に着目して、言葉やそれ以外の方法等を利用して、コミュニケーションを図り、他者にも分かりやすく模範や印象的に伝えることができる	自分またはグループでの疑問や問題点、改善点に着目して、言葉やそれ以外の方法等を利用して、コミュニケーションを図り、他者にも分かりやすく模範や印象的に伝えることができる
		友達と力を合わせたり、自分からより積極的に学習に取り組んでゆくことができる。	友達と力を合わせたり、自分からより積極的に学習に取り組んでゆく影響力を発揮することができる。	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度と方針を持ち、学習に取り組み他者の励みとなることができる。	友達と力を合わせたり、自分からの積極的な態度と方針を持ち、学習に取り組み他者の励みとなることができる。
		自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる	自他の文化を尊重することができ、人に対する心遣いをすることができる
		運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと果たすことができる	運動・スポーツなどの学習を行う上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚し果たすことができる	運動・スポーツなどの学習過程を検討した上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚し果たすことができる	運動・スポーツなどの学習過程を検討した上で、それらに対する熱意とそれらを行うための責任をしっかりと自覚し果たすことができる
		自分や仲間との達成感を味わうために身近な目標作りを計画し、それを達成しようとすることができる。学習カードなどの提出状況もよく、内容も充実している	自分や仲間との達成感を味わうために身近な目標作りを計画、実行し、それをさらに高めた達成ができるようにすることができる。学習カードなどの提出状況もよく、内容も充実している	自分や仲間との活動を達成するために身近な目標作りを計画、実行し、それを今まで以上に高めた形で実行することができる。学習カードなどの提出状況もよく、内容も充実している	自分や仲間との活動を達成するためにより身近な目標作りを計画、実行し、それを今まで以上に高めた形で実行することができる。学習カードなどの提出状況もよく、内容も充実している

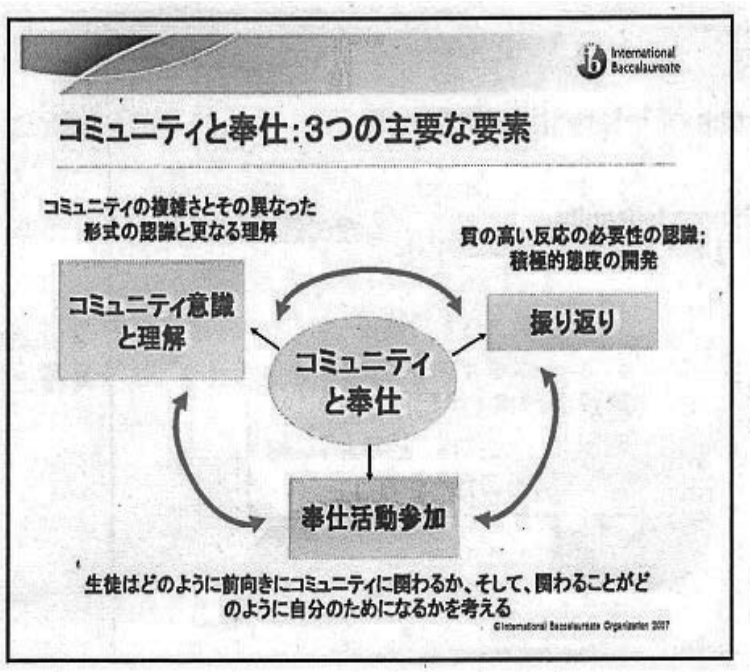
第２章　保健体育科で関わってきたＣＳ（コミュニティと奉仕）

１．CS に対する生徒への関わりを持たせる

ＭＹＰでは、相互作用のエリア（Areas of Interaction）としてのコミュニティと奉仕（Community and service）の活動を推奨している。保健体育科においては、ここ数年スポーツとＣＳに関わること活動を行ってきた。

コミュニティと奉仕では、３つの主要な要素を示している。

保健体育科では、三つの要素を満たすべく、以下のような方法をとった。



（１）コミュニティ意識と理解

多くの方々が参加可能なスポーツを含むイベントへの参加をすることで、社会への認知を深める。

（具体的な手立て　事前指導・実際の参加）

（２）振り返り

1、２年生では、大人のリーダー（主に社会人）による評価をボランティア活動後に記入してもらう。活動の中で基本的にしなければならないこと、活動を行う際に守らなければならないこと。またよりよい方向へ導くために自らの発想で考え、そして行動するなど試みる。

（具体的な手立て　大人のリーダーによる評価、自己評価）

２．二つのＣＳ活動

（１）Walk & Run Festa（主催者　一般社団法人　ナンフェス）への参加

一つは東京学芸大学が協同に行っている Walk & Run Festa を選んだ。Walk & Run Festa は、健常者がほとんどである本校生徒達に今私たちが生活している社会に健常者のみならず様々な方がいらっしゃることとそのような方々と共に何かできることはないかだろうかとい思いが合致して、本事業へ協力することになった。

① Walk & Run Festa の目的と概要

ウォーク＆ランフェスは難病や障害を持つ人、持たない人も同じ場所で身体を動かしたり、音楽を聴いたりして互いに感じ合え、知り合えることを目的としたイベントに本校生徒が参加した。

以下にその概略を示した。

概要　　Walk & Run Festa からはじめの一歩を、はじめよう

☆知るからはじめる一歩	難病や障害を知ることから（患者会等の団体展示ブースなどの手伝い）
☆動くことからはじめる一歩	ウォーク＆ランや車いす体験などを通じて体を動かすことから（ウォーク＆ランや体感運動会の手伝い）
☆楽しむからはじめる一歩	音楽やダンス、アートを楽しむことから（ライブ、アートギャラリーなどの手伝い）

ボランティア時間　８：００－１７：００
場所　味の素スタジアム（2009～2011）→東京学芸大学へ(2012～)

② Walk & Run Festa における生徒たちの変化

a.生徒の参加の変化

下表で示すように本校の在校生徒数は、ナンフェス第１回目は３５０名程度中１４０名が参加した。第３回には、大泉校舎の最終学年となり、国際中等教育学校完成時は、生徒数は７００名程度である。しかし、ナンフェスのボランティア人数は、確実に増えている。この活動が定着しつつある点と学校全体としての CS 活動をする意欲が高まっていると考えられる。

表１．ボランティア数の変化

年度		会場	大泉校舎	1回生	2回生	3回生	4回生	5回生	6回生	7回生	ボランティア合計	
2009	第1回	味スタ		71	51	18					140	
2010	第2回	味スタ	学園祭のため								不参加	
2011	第3回	味スタ	1	10	18	19	26	47			120	
2012	第4回	学芸大		O	7	5	31	72	40		155	1回生卒業
2013	第5回	学芸大			O	5	26	78	51	53	213	

③ 活動内容の変化

Walk & Run Festa では様々な活動がなされているが、生徒達は呼び込みや参加者と共に活動する喜びを味わっていたようだ。特に 2012 年(第４回)は、天候に恵まれず大雨の降る中、Walk & Run Festa は行われた。特にランニング担当の生徒達は、大人に言われるのではなく、雨の中、大声を出したり、ハイタッチしたりしてランナー達を励ますことを行っていた。その姿は、他の生徒達にも広がり、ランナー達も胸を打たれたようだった。

参加者より

最初から最後までひたすら雨が降り続き、途中からは風さえ出てきましたが、中学から大学生までのボランティアさんたちの応援のおかげで楽しく走れました。障害者の方たちの頑張る姿にも励まされました。 傘をさして応援してくださった方々、風邪をひかなかったでしょうか？ （中略） 私は 4 時間を過ぎたところで足首が痛くなってしまってリタイア。でも更衣室で熱いシャワーを浴びている間にファイナルの応援のにぎやかな声が聞こえてきて、もうちょっと頑張るんだったなー、と激しく後悔しました(;_;)

（ http://runnet.jp/report/raceDetail.do?command=page&raceId=70544&userNumber=157424&pageIndex=&sortIndex=0）ランネットより

ナンフェスでの活動

写真１(雨の中でのハイタッチ 2012 年)

写真２（宣伝する生徒達 2013 年）

（２）光が丘ロードレース

もう一つは、学校が練馬区にあるので、区が主催するスポーツイベントである光が丘ロードレースに参加している。将来的には本校生徒もイベント参加選手として、またはボランティアとして携わっていけるものがあるのではないだろうかと考え、練馬区スポーツ振興課の協力を頂き、まずはボランティアとして参加できることになった。

① 名称　「ねりま光が丘ロードレース」（主催　練馬区スポーツ振興課）
② 目的　本校が所在する練馬区主催の大会を実際に体感することで、大会をサポートする立場を経験する。

③ ボランティア時間　８：００－１３：００

④ 参加を通じて

練馬区より男女２０名という制限があり、希望制の形をとって行った。事前指導等を通じて、参加した。参加者へは、各ボランティア部署の大人リーダーより生徒の働きぶりなど簡単な評価とコメントをもらった。

生徒たちは、参加者に声をかけ、走り終わったランナー達に苦労をねぎらい、自分たちができること（飲み物の配布や、タグ取り、記録証の配布場所の案内など）を行っていた。

写真３（飲み物を配布する生徒達 2013 年）

引用文献

1　学校教育は社会性の育成にどう向き合うべきか　藤原幸男　体育科教育 2012.03 大修館書店 pp.11

2　未来をつくる教育 ESD　持続可能な多文化社会をめざして　五島敦子／関口知子 明石書店 pp.148

3　文化としてのスポーツのグローバル化の複雑な様相　海老島均　体育の科学 vol.62/no.5 2012.5.1　杏林書院　pp325

4　拙者　本校カリキュラム改革調査研究３年次報告 1997　pp114

5　本校研究紀要第５号　2011 pp68-69

文責　板村　邦弘

Abstract

In light of our concept of a global perspective and skills, the physical education department seeks to develop students with the ability to gain insight into various cultures and cope with cultural differences and diversity in an increasingly globalized world. This article describes MYP assessment criteria for the 1st to 4th grade, as well as two CS (Community and Service) activities related to physical education.